

令和7年度(2025年度)八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	現代の国語
学年・類型	1学年・全	単位数	2
教科書	「高等学校 現代の国語」 第一学習社		
副教材	「現代文グレートラーニング40 レベル1」・「核心漢字 2500＋語彙 1000」尚文出版		
科目目標	言語活動を通して、実社会に必要な国語の知識・技能を身に付けるとともに、他者との関わりの中で伝え合う力をより高めていくために、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を育成する。また、言語の持つ価値への認識を深め言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して積極的に社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク、ペアワークを通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・比喩や例示などの修辞を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・読書の意義と効用を理解する。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。	・目的や場に応じて適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する方法を学ぶ。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、話(文章)の構成や展開を工夫する方法を学ぶ。 ・資料や機器を効果的に用いるなど、相手の理解を得られるように表現の仕方を工夫する方法を学ぶ。 ・話を聞いて内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価する方法を学ぶ。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ②確認テスト ③授業への取組状況	①定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ②確認テスト ③課題の内容 ④授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況 ③自己評価や相互評価 ④課題考査(到達度テスト)

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準(到達目標B規準)と到達度チェック(自己評価)			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	単元テーマ「自己と他者」 1『『本当の自分』幻想』 2「話し方の工夫・待遇表現・論理的な表現・スピーチで自分を伝える」 3「羅生門」 4「合意形成のための話し合いを行う・理想の修学旅行をプレゼンする」 単元のまとめ	☐ 常用漢字を文や文章の中で活用している。 ☐ 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ☐ 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ☐ 推論の仕方について理解を深めている。 ☐ 比喩などの修辞について理解を深めている。 ☐ 話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現について理解を深め使っている。 ☐ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解している。	☐ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を的確に捉え要旨を把握する。 ☐ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ☐ 自分の考えが的確に伝わるよう根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。 ☐ 自分の立場や考えを明確にし、論理の展開などを考えて、話の構成や展開を工夫している。 ☐ 話し言葉の特徴を踏まえて話したりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ☐ 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理している。 ☐ 論理の展開を予想しながら聞き話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げ	☐ 反論を示すことによって自分の主張の正しさを補強する推論の仕方を理解し、粘り強く論理の展開を把握しようとしている。 ☐ 積極的に本文中に根拠を求め、筆者の主張に対する自分の考えを、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ☐ 自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。 ☐ 内容の解釈を踏まえて粘り強く登場人物の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。 ☐ 積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、学習課題に沿って話し合おうとしている。 ☐ 進んで材料を集めたり吟味したりし、学習を生かしてスピーチを行おうとしている。 ☐ 進んで表現や話し方を工夫し、効果的に話そうとしている。 ☐ 積極的にスピーチを聞き、評価シート等を活用して評価しようとして	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③

			たり深めたりしている。 ☐ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的種類、状況に応じて、表現の進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	いる。	
2 学 期	単元テーマ「日本文化の景色」 1「水の東西」 2「書き方基礎レッスン①」 3「『間』の感覚」 4「無彩の色」 5「書き方基礎レッスン②」 6「地域の魅力を紹介する」 単元のまとめ	☐ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。 ☐ 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ☐ 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ☐ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ☐ 推論の仕方について理解を深めている。 ☐ 書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解を深め使っている。	☐ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ☐ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ☐ 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ☐ 表記・表現の基本ルールを理解している。 ☐ 接続表現の種類や用法を理解している。 ☐ 必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解している。	☐ 情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 ☐ 効果的に書くための方法を積極的に理解し、表現の工夫を身に付けようとしている。 ☐ 筆者の論理について自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
3 学 期	単元テーマ「現代社会を見つめる」 1「現代の『世論操作』」	☐ 常用漢字を文や文章の中で活用している。 ☐ 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。	☐ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ☐ 文章に含まれている情報を相互	☐ 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。 ☐ 個別の情報をどのように一般化し	知 ①②③ 読 ①②③

2「ロビンソン的人間と自然」 3『私作り』とプライバシー」 4「デザインの本意」 5『動機の語彙論』という視点」 6「社会に対する意見文を書く」 単元のまとめ	☐ 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ☐ 推論の仕方について理解を深めている。 ☐ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ☐ 実社会との関わりを考えるための読書の意義と活用について理解を深めている。 ☐ 書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解を深め、使っている。 ☐ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ☐ 自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。 ☐ 説明の仕方を考えるとともに、表現の仕方を工夫している。 ☐ 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ☐ 自分の立場や考えを明確にし、論理の展開などを考えて、話の構成や展開を工夫している。 ☐ 話し言葉の特徴を踏まえて話したりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ☐ 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理している。 ☐ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情	ているかを進んで捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。 ☐ 現代社会の課題を把握し、根拠の示し方や説明の仕方を考えて書こうとしている。 ☐ 内容や構成を叙述を基に捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 ☐ 既習の評論と読み比べ、共通点を説明しようとしている。 ☐ 事実と意見を区別して粘り強く評論を読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 ☐ 筆者の主張とそれを支える根拠を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 ☐ 反論を示すことによって自分の主張の正しさを伝えようとする評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 ☐ 説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。 ☐ 目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。	④ 主 ①②③
--	--	--	--	-------------------------------

			報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ☐ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現の進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。	☐ 書いた意見文を進んで批評しあい批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫しようとしている。	
--	--	--	---	---	--

令和7年度(2025年度)八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	言語文化
学年・類型	1学年・全	単位数	3
教科書	「高等学校 言語文化」 第一学習社		
副教材	「グランステップ古典」尚文出版・「体系古典文法」数研出版・「精選漢文」尚文出版		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ②確認テスト ③授業への取組状況	①定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ②確認テスト ③課題の内容 ④授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況 ③自己評価や相互評価 ④課題考査(到達度テスト)

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	単元①「古文を読むために」 「児のそら寝」	☐ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ☐ 主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	☐ 我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ☐ 古典の文章になれるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ☐ 説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ☐ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	☐ これからの学習に見通しをもって、わが国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚を持とうとしている。 ☐ 積極的に説話を読み味わい、話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ☐ 時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明しようとしていたりしている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
	単元②「漢文入門」 「蛇足」	☐ 返り点の種類と使い方を習得している。 ☐ 助字のはたらきと意味を習得している。 ☐ 再読文字の種類と読み方を習得している。 ☐ 訓読のきまりを理解している。 ☐ 訓読に慣れ、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解している。	☐ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ☐ たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉えることができる。 ☐ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ☐ 作品の歴史的・文化的背景を理解することができる。	☐ 故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ☐ 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解しようとしている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
	単元③「説話・随筆を読む」 「徒然草」	☐ 文語の用言のきまりについて理解している。	☐ 随筆という文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などにつ	☐ 主として用言の活用について、文語の決まりを理解しようとしてい	知 ①②③

		☐ 古語辞典の引き方に慣れ、調べる語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ☐ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	いて叙述を基に的確にとらえている。 ☐ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ☐ 文法のきまりを理解して、法則性をもとに活用形を判別することができる。	る。 ☐ 本文中に現れた作者の批判・教訓など積極的に読み取り、伝え合おうとしている。	読 ①②③ ④ 主 ①②③
2 学 期	単元④「故事成語を読む」 「狐借虎威」	☐ 訓読のきまりを理解している。 ☐ 訓読に慣れ、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解している。	☐ たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉えることができる。 ☐ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ☐ 作品の歴史的・文化的背景を理解することができる。 ☐ 故事成語の由来を調べ、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。	☐ 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解しようとしている。 ☐ 故事成語に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ☐ 課題に応じて調査することができる。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
	単元⑤「歌物語を読む」 「伊勢物語」	☐ 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。 ☐ 古典の世界に親しむために、『伊勢物語』の文学史的位置づけ及び歴史的・文化的背景について	☐ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ☐ 作品に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ☐ 作品の成立した背景や他の作	☐ 歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味をとらえようとしている。 ☐ 学習課題に沿って異なるテキストを読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。 ☐ 助動詞を中心とした文語のきまり	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③

		理解を深めている。	品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ☐ 文語のきまりや語句の意味などの知識を活かして古文を現代語訳に言い換えることができる。	について積極的に学ぼうとしている。	
単元⑥「和歌・短歌」 「古今和歌集」	☐ 和歌の鑑賞のしかたを理解し、発展期の和歌の特色を捉えることができる。 ☐ 特徴的な和歌、短歌、折句の表現の技法とその効果について理解することができる。 ☐ 主として掛詞・縁語・見立てなどの和歌の修辞について、文語のきまりを理解することができる。 ☐ 短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わうことができる。	☐ 和歌という文章の種類を踏まえて、理知的に表現された情景や心情など、内容や展開を的確に捉えることができる。 ☐ 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ☐ 折句を用いて感じたことを短歌で表すことができる。	☐ 我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解することができる。 ☐ 学習課題に沿って折句を用いて短歌を創作することができる。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③	
単元⑦「史伝を読む」 「臥薪嘗胆」 「完璧」	☐ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、語かを磨き語彙を豊かにしている。 ☐ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ☐ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のき	☐ 史伝を読み解き、内容や展開を的確に捉えることができる。 登場人物に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ☐ 作品の歴史的・文化的背景を理解することができる。	☐ 積極的に史伝を読み、蘭相如の考え方や人物像を説明しようとしている。 ☐ 蘭相如が登場する別の逸話を読み比べ、表わされた人物像の相違点をまとめようとしている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③	

		まり、古典特有の表現などについて理解を深めている。			
	単元⑧「思想を学ぶ」 「論語」	☐ 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ☐ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	☐ 「論語」の文章をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述を本に的確に捉えている。 ☐ 「論語」の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	☐ 「論語」が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。 ☐ 孔子について興味をもち、図書館の資料などを用いてエピソードを調べようとしている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
3 学 期	単元⑨「漢詩を読む」 「春暁」「江雪」「静夜思」	☐ 漢詩の表現の技法と効果について理解している。 ☐ 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ☐ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	☐ 漢詩の後世や展開、表現の仕方や特色について評価している。 ☐ 漢詩に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	☐ 漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ☐ 粘り強く漢詩を読み比べ、読まれた情景や心情を説明しようとしている。 ☐ 我が国の文化に漢詩が浸透していたことに興味を持ち、中国の文化との関係に理解を深めている。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③
	単元⑩「日記文学を読む」 「土佐日記」	☐ 『土佐日記』の文学史的位置づけについて理解することができる。 ☐ 月の異名、古時刻、古方位などの古文常識について理解することができる。 ☐ 語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。 ☐ 助動詞について、文語のきまりを理解することができる。	☐ 我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解くことができる。 ☐ 女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えることができる。 ☐ 作品に表れている批評や諧謔	☐ 課題に応じて調査したことをまとめ、発表することができる。	知 ①②③ 読 ①②③ ④ 主 ①②③

			の精神を捉え、内容を解釈することができる。		
--	--	--	-----------------------	--	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	公 民	科 目	公 共
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	高等学校 新公共（第一学習社）		
副教材	新公共ノート（第一学習社） クローズアップ公共（第一学習社）		
科目目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況について評価する問題を出題） ②確認テスト ③プリントの知識・技能に関する問題の記述状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②確認テスト ③課題の内容 ④授業時の思考問題への解答状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況 ③振り返りシートによる自己評価

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	☐ 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。	☐ 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。	☐ 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③
	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	☐ 現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探究することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。	☐ 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	☐ 公共的な空間における人間としての在り方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	第3章 公共的な空間における基本的原理	☐ 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	☐ 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	第2編 自立した主体として よりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任	☐ 法と基本的人権、自由に生きる権利と法・規範、平等に生きる権利と法・規範、安全で豊かに生きる権利と法・規範、法をよりよいものにするための権利について理解している。	☐ 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	☐ 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③
		☐ 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	

	主題3 司法参加の意義	☐ 個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解している。司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
2 学 期	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成	☐ 民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解している。政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	☐ 政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③
	主題5 国際社会と国家主権	☐ 主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解している。国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。	☐ 国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	主題6 日本の安全保障と防衛	☐ 日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解している。日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 日本国憲法の平和主義をふまえ、具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりすることができる。	☐ 日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	主題7 国際社会の変化と日本の役割	☐ 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題	☐ 少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解している。	☐ 法分野の基本的な人権とも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	
	主題9 社会の変化と職業観	☐ グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解している。社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。	☐ 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来の在り方について考えようとしている。	

	主題 10 市場経済の機能と限界	☐ 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	☐ 公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを諸課題に関わる諸資料から読み取り、まとめる技能を身に付けている。	☐ 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
3 学 期	主題 11 金融のはたらき	☐ 経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのか理解する。	☐ 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解し、具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したりすることができる。	☐ 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③
	主題 12 財政の役割と社会保障	☐ 少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解している。	☐ 少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。	☐ 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	主題 13 経済のグローバル化	☐ 経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきかを理解している。	☐ 政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	☐ 経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	☐ 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、現代の諸課題を探究する活動を行い、これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。	☐ 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。	☐ 現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学 I
学年・類型	1 学年・高進生	単位数	3
教科書	高等学校 数学 I（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学 I + A（東京書籍） 項目別学習ノート（式と証明、複素数と方程式）		
科目目標	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	- 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 - 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 - 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 - 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	- 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ② 単元テスト	① 定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ② 単元テスト	① 週末課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査 ③ 日々の演習の取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	☐ 多項式の加法、減法の計算ができる。 ☐ 式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式がてきようできるようにすることができる。 ☐ 有理数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解している。 ☐ 根号を含む式の計算ができる。 ☐ 不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。 ☐ 1次不等式を解くことができる。 ☐ 連立不等式、絶対値を含む不等式を解くことができる。	☐ 式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ☐ 式の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにする。 ☐ 実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、大小関係と数直線に関係づけて考察することができる。 ☐ 身近な問題を1次不等式に帰着させ、解決することができる。 ☐ 適切に絶対値をはずす処理ができる。	☐ 単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ☐ 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ☐ 根号を含む式の計算公式を証明しようとする。 ☐ 不等式における解の意味について、等式における解と比較して、考察しようとする。 ☐ 絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	☐ 空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 ☐ 必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 ☐ 命題の逆、裏、対偶の定義を理解している。	☐ ベン図を用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。 ☐ 命題に応じて、対偶の利用や背理法の利用し、命題を証明することができる。	☐ 3つの集合についても、和集合、共通部分について考察使用とする。 ☐ 集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	☐ $y = ax^2$ 、 $y = ax^2 + q$ 、 $y = a(x - p)^2$ 、 $y = a(x - p)^2 + q$ の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。 ☐ $ax^2 + bx + c$ を $a(x - p)^2 + q$ の形に変形できる。 ☐ 平方完成を利用して、2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ☐ 2次関数を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に式変形して、最大値、最小	☐ 2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフを、 $y = ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。 ☐ 放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。 ☐ 具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。	☐ 日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ☐ 2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

		値を求めることができる。 ☐ 2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。			
	第3節 2次方程式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式	☐ 2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ☐ 2次方程式において、判別式$D = b^2 - 4ac$の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ☐ 2次不等式を解くことができる。 ☐ 2次の連立不等式を、解くことができる。	☐ 2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ☐ 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、$D = b^2 - 4ac$の符号から考察することができる。 ☐ 2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。	☐ 2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ☐ 2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ☐ 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。 ☐ 身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
2学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	☐ 直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ☐ $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$などの公式が利用できる。 ☐ 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ☐ $\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$などの公式が利用できる。 ☐ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$において、三角比の値から$\theta$を求めることができる。また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 ☐ 正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ☐ 余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。	☐ 三角比の表から$\sin \theta$、$\cos \theta$、$\tan \theta$の値を読み取ることができる。 ☐ 具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。 ☐ 既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。 ☐ 三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ☐ 三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ☐ 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	☐ これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ☐ 三角比が与えられたときのθを求める際に、図を積極的に利用しようとする。 ☐ 三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$なども求めようとする。 ☐ 三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 ☐ 日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係	□ 三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 □ 3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 □ 3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 □ 度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 □ 平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 □ 範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 □ 箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。	□ データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 □ データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 □ 散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 □ データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。	□ データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 □ 変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 □ 相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
--	--	--	---	--	---

3 学 期	項目別学習ノート 式と証明 複素数と方程式 問題演習	☐ 3次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 ☐ 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 多項式の割り算の計算方法を理解している。 ☐ 分数式の約分、四則計算ができる。 ☐ 恒等式となるように、係数を決定することができる。 ☐ 分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ☐ 恒等式 $A = B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ☐ 比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 ☐ 実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ☐ 平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	☐ 二項定理を等式の証明に活用することができる。 ☐ 2種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。 ☐ 分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ☐ 恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ☐ 不等式 $A > B$ を証明するとき、 $A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ☐ 不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。	☐ 因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ☐ $(a + b + c)^n$ を展開したときの a^p 、 b^q 、 c^r の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ☐ 比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ☐ 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	複素数と方程式 問題演習	☐ 複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ☐ 複素数の四則計算ができる。	☐ 複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 ☐ 複素数の四則計算の結果は複	☐ 2次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。	

	☐ 負の数の平方根を理解している。 ☐ 負の数の平方根を含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 ☐ 2 次方程式の解の公式を利用して、2 次方程式を解くことができる。 ☐ 判別式を利用して、2 次方程式の解の種類を判別することができる。 ☐ 解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。 ☐ 2 次方程式の解を利用して、2 次式を因数分解できる。 ☐ 和と積が与えられた 2 数を、2 次方程式を解くことにより求めることができる。 ☐ 剰余の定理を利用して、多項式を 1 次式や 2 次式で割ったときの余りを求めることができる。 ☐ $P(k) = 0$ である k の値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ☐ 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	素数であることを理解している。 ☐ 判別式 D の代わりに $D/4$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 ☐ 与えられた 2 数を解にもつ 2 次方程式が 1 つには定まらないことを理解している。 ☐ 異なる 2 つの実数 α 、 β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ☐ 2 次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 ☐ 多項式を 1 次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 ☐ 高次方程式を 1 次方程式や 2 次方程式に帰着させることができる。 ☐ 高次方程式が解 α をもつことを、式を用いて表現できる。	☐ 2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。 ☐ 2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ☐ 多項式を 1 次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ☐ 1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	
--	--	--	--	--

令和7度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学A
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	高等学校 数学A（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学I+A（東京書籍）		
科目目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査 ③ 日々の演習の取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素と個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	☐ 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用できる。 ☐ ベン図を利用することで、和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。 ☐ 具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。 ☐ 樹形図を用いて、場合の数をめれなくかつ重複なく数えることができる。 ☐ 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ☐ 自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。 ☐ 自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。 ☐ 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 ☐ 順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。 ☐ 順列、円順列に条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 ☐ 組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、利用することができる。 ☐ 組合せの条件が付く場合に、条件	☐ ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 ☐ 場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ☐ 自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。 ☐ 条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ☐ 既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。	☐ 集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ☐ 表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。 ☐ 道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 ☐ 自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。 ☐ 既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 ☐ 色の塗り分けの方法を数えるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ☐ 順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ☐ 順列と組合せの違いに興味・関心	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

2 学 期		の処理の仕方を理解している。 組分けの総数を求めることができる。 ☐ 同じものを含む順列の総数を求めることができる。	☐ 既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ☐ 条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ☐ 同じものを含む順列を、組合せや順列で考察することができる。	をもつ。 ☐ 組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。 ☐ 重複組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。	
	第2節 確率 5. 事象と確率	☐ 確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ☐ 試行の結果を事象として表すことができる。 ☐ 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。	☐ 試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ☐ 不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的に捉えることができる。	☐ 1 個のさいころを繰り返し投げた実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	6. 確率の基本性質 7. 独立な思考と確率 8. 条件付き確率 1. 9. 期待値	☐ 積事象、和事象の定義を理解している。 ☐ 確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 ☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。 ☐ 独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ☐ 複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ☐ 反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ☐ 複雑な反復試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ☐ 条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。 ☐ 条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。 ☐ 条件付き確率や確率の乗法定理を	☐ 集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ☐ 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ☐ 既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。	☐ 加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 ☐ 独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ☐ 具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。 ☐ 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心を持ち、積極的に活用しようとする。 ☐ 条件付き確率を利用して原因の確率が考えられることに興味を持ち、考察しようとする。 ☐ 日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

3 学 期		用いて確率の計算ができる。 ☐ 期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。	☐ 結果が不確実な状況下において、どの選択が有理かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。	用いて比較し、考察しようとする。	
	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理	☐ 線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。 ☐ 定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 ☐ 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積を求める問題に活用できる。 ☐ 三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解している。	☐ 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。	☐ 線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ☐ 三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 第2節 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	☐ 円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ☐ 円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。 ☐ 四角形が円に内接するための条件を利用して、円に内接する四角形を求めることができる。 ☐ 円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。 ☐ 円の接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。 ☐ 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ☐ 2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 ☐ 共通接線の定義を理解し、その長	☐ 円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ☐ 円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。 ☐ 円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ☐ 方べきの定理について、対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。 ☐ 2つの円を動的にとらえて、そ	☐ 三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 ☐ 相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ☐ 方べきの定理の逆が成り立つことに興味・関心をもつ。 ☐ 2つの円の位置関係と、中心間の	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

		さの求め方がわかる。 ☐ 空間における 2 直線の位置関係やなす角を理解している。 ☐ 正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ☐ 正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。	これらの位置関係を考察することができる。 ☐ 正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。	距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 ☐ オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに興味をもつ。	
--	--	--	--	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅱ
学年・類型	1 学年・中進生	単位数	3
教科書	高等学校 数学Ⅱ（数研出版）		
副教材	NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B（東京書籍）		
科目目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付けている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題の提出状況及び取組状況 ② 課題考査 ③ 日々の演習の取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	☐ 3次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 ☐ 二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 多項式の割り算の計算方法を理解している。 ☐ 分数式の約分、四則計算ができる。 ☐ 恒等式となるように、係数を決定することができる。 ☐ 分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ☐ 恒等式 $A = B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ☐ 比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 ☐ 実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。 ☐ 平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	☐ 二項定理を等式の証明に活用することができる。 ☐ 2種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1つの文字に着目することで、1文字の場合と同様に考えることができる。 ☐ 分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ☐ 恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ☐ 不等式 $A > B$ を証明するとき、 $A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。 ☐ 不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 ☐ 不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。	☐ 因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ☐ $(a + b + c)^n$ を展開したときの a^p 、 b^q 、 c^r の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ☐ 比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ☐ 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	☐ 複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ☐ 複素数の四則計算ができる。 ☐ 負の数の平方根を理解している。 ☐ 負の数の平方根を含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 ☐ 2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。	☐ 複素数の表記を理解し、複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 ☐ 複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ☐ 判別式 D の代わりに $D/4$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用い	☐ 2次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ☐ 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

		☐ 判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することができる。 ☐ 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ☐ 2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ☐ 和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。 ☐ 剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ☐ $P(k)=0$ である k の値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ☐ 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	ようとする。 ☐ 与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ☐ 異なる2つの実数 α 、 β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ☐ 2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 ☐ 多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 ☐ 高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ☐ 高次方程式が解 α をもつことを、式を用いて表現できる。	☐ 2次式を複素数の範囲で因数分解することに関心をもち、問題に取り組もうとする。 ☐ 多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ☐ 1の3乗根の性質に関心・興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	
	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ☐ 座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ☐ 三角形の重心の座標の公式を理解している。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 2直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ☐ 点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。	☐ 図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ☐ 点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ☐ 直線が x 、 y の1次方程式で表されることを理解している。 ☐ 直線に関して対称な点の座標を求めることができる。	☐ 数直線上の点について調べようとする。 ☐ 図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ☐ 切片形の公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。 ☐ ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ☐ 2直線の交点を通る直線の方程式に関心・興味をもち、具体的な問題に利用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
2 学期	第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円	☐ 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ☐ x 、 y の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べる	☐ 円の方程式が x 、 y の2次方程式で表されることを理解している。		知① 知② 思① 思②

	第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	ことができる。 ☐ 3点を通る円の方程式を求めることができる。 ☐ 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ☐ 円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ☐ 円の接線の公式を理解して、それを利用できる。 ☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ☐ 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ☐ 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ☐ 不等式の表す領域を図示することができる。 ☐ 連立不等式の表す領域を図示することができる。	☐ 3点を通る円はこの3点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ☐ 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ☐ 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ☐ 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ☐ 軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ☐ 不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。	☐ 円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ☐ 2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ☐ 点満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ☐ 不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち、考察しようとする。	主① 主② 主③
	第4章 三角関数 第1節 角の拡張 1. 三角比 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	☐ 一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を$\alpha + 360^\circ \times n$と表したりすることができる。 ☐ 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。 ☐ 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 ☐ 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ☐ 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ☐ 単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。 ☐ いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解し	☐ 一般角を動径とともに考察することができる。 ☐ 弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。		知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

	ている。 ☐ $y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。 ☐ 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ☐ $-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。 ☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ☐ 正接の加法定理を利用して、2 直線のなす角を考察することができる。 ☐ 2 倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ☐ 合成後の変数のとる値の範囲に注意して、$a \sin x + b \cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。	☐ 単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。 ☐ 三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 ☐ 三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。 ☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む方程式を考察することができる。また、その解き方を理解している。 ☐ 変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。 ☐ 角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ☐ 2 倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考察することができる。	☐ $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。 ☐ 周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。 ☐ 三角関数を含む方程式・不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ☐ やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。 ☐ 加法定理を 2 点間の距離の公式を用いて証明しようとする。同じ周期をもつ 2 つの関数 ☐ $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。	
第 5 章 指数関数と対数関数 第 1 節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	☐ 指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ☐ 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ☐ 指数が無理数の場合の累乗根の意味を理解することができる。 ☐ 指数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と 1 の大小に注意し、指数関数を含む不等式を解くことができる。	☐ 指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ☐ 累乗根をグラフによって考察することができる。 ☐ 指数関数 $y = a^x$ のグラフが定点 (0, 1) を通ることを理解している。 ☐ 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	☐ 累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ☐ 負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ☐ 指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

3 学 期	第2節 対数関数 3. 対数関数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	☐ 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ☐ 対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ☐ 底の変換公式を等式として利用できる。 ☐ 対数関数のグラフの概形、特徴を理解し、底と1の大小に注意して、対数関数を含む不等式を解くことができる。 ☐ 対数の性質を用いる際に、真数が正であることに着目できる。 ☐ おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。 ☐ 常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ☐ 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。	☐ 対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ☐ 指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ☐ 対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ☐ 対数関数 $y = \log_a x$ のグラフが定点(1,0)を通ることを理解している。 ☐ 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ☐ 桁の数、小数首位第 n 位の数を、不等式で表現することができる。	☐ 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ☐ やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ☐ 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	第6章 微分方と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	☐ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ☐ 微分係数の図形的意味を理解している。 ☐ 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができ、導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ☐ 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ☐ 関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。導関数を利用して、関数の極値を	☐ 平均変化率における x の変化量 h は負でもよいことを理解している。 ☐ 導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。 ☐ 定点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 ☐ 接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。	☐ 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。 ☐ 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 ☐ 関数の増減や極値を調べ、3次関	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③

	☐ 求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ☐ 導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ☐ 不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。	☐ $f'(a) = 0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ☐ 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ☐ 方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ☐ 不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。	数のグラフ、4 次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。 ☐ 身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	
--	--	--	---	--

令和5年度（2023年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	物理基礎
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	考える物理基礎（啓林館）		
副教材	リードLight ノート物理基礎（数研出版），物理基礎研究ノート（博洋社）		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動などのさまざまな物理現象やエネルギーへの関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。		
学習方法	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち，疑問に思ったことを確かめてみる。その際，教科書や副教材を中心に，物理的な事物・現象に対する概念や法則を暗記するのではなく，しっかりと理解する。また，課題探究学習やグループワーク等を通して，思考力・判断力・表現力，主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら，物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし，規則性を発見したり，認識を深めたりするための情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，法則性の導出などの探究の方法が習得できている。また，報告書を作成したり発表を行ったりして，科学的に探究する力が育まれている。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり，それらに対する課題を見つけ，考え，見通しをもって観察，実験などに取り組もうとするなど，科学的に探究しようとする態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 考查（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 確認テスト ③ 授業への取組状況	① 考查（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 確認テスト ③ 課題，実験レポートの内容 ④ 授業への取組状況	① 課題やノート，授業プリントへの取組状況や提出状況 ② 確認テスト ③ 実験レポートへの取組状況や提出状況 ④ 授業への取組状況 ⑤ 課題考查

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動	☐ 変位や速度，加速度などの物体の運動の基本的な表し方について，直線運動を中心に理解する。 ☐ 等加速度直線運動や物体の落下運動について理解する。空気抵抗のない落下運動の場合，質量（重さ）によらず落下の加速度が同じであることを理解する。	☐ 物体や身近な乗り物の運動の様子を，位置－時間のグラフや速度－時間のグラフで表現することができる。 ☐ 実験1「重力加速度の測定」（P.31）を行い，速度－時間の関係から重力加速度の大きさを見だし，結果について表現することができる。	☐ 物体の運動の表し方や直線運動に関心をもち，主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④ 主⑤
	第2章 力と運動	☐ 力の三要素や様々な種類の力の性質，力の合成・分解，力のつりあいについて理解する。 ☐ 運動の三法則や運動方程式をもとに力と運動の関係を定量的に理解する。	☐ 物体が運動状態，静止状態いかなる状態であっても，はたらく力を作図によって正確に表現することができる。 ☐ 作用・反作用の関係にある力やつりあいの関係にある力を正確に把握し，それぞれの関係を説明することができる。 ☐ 探究2～4（P.51～P.55）「一定の力がはたらくときの物体の運動」を行い，実験データから力，質量，加速度の関係について見いだすことができる。	☐ 様々な種類の力や運動の法則に関心をもち，力と運動の関係について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④ 主⑤
2 学 期	第3章 仕事とエネルギー	☐ 物理における仕事の定義や運動エネルギー，位置エネルギー，弾性エネルギー等について学び，力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。 ☐ やってみよう「ばねの運動」（P.83）を行い，弾性力による位置エネルギーについて確かめる。 ☐ 実験3「力学的エネルギーの保存」（P.91）を行い，各位置における力学的エネルギーが保存されているかを確かめる。	☐ 実験2「運動エネルギー」（P.79）を行い，実験結果をもとに，台車が静止するまでの間にする仕事，衝突直前の台車の速さや質量とどのような関係にあるのかを見いだすことができる。 ☐ 振り子の運動やなめらかな曲線上の運動，ばね振り子の運動の特徴について，力学的エネルギー保存の法則の観点から説明することができる。	☐ 仕事とエネルギーに関心をもち，力学的エネルギーについて主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④ 主⑤

第2部 熱 第1章 熱とエネルギー	☐ 原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に扱い、物質の三態や物理における熱という概念について理解する。 ☐ 熱の移動や熱量の保存、比熱、熱容量について理解する。 ☐ 熱と仕事の変換や、様々なエネルギー、熱現象の不可逆性について理解する。	☐ 物理学における熱と温度の違いを、熱運動という用語を用いて説明することができる。 ☐ 比熱や熱容量をもとに、物体の熱伝導性について正確に判断することができる。 ☐ 実験4「比熱の測定」(P.101)を行い、実験データと熱量の保存から試料の比熱を見だし、金属の種類を推定することができる。	☐ 熱とエネルギーに関心をもち、熱運動や熱量の保存、熱と仕事の関係について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④ 主⑤
第3部 波 第1章 波の性質	☐ 波の発生や伝わり方、波の種類、正弦波、波の重ね合わせ、反射などの波の諸性質について理解する。	☐ 振動が伝わる様子を変位－位置のグラフや変位－時間のグラフで表現することができる。また、グラフから振動がどのように伝わっているのかを判断することができる。 ☐ 縦波を横波に変換し、縦波の特徴を説明することができる。 ☐ 波の重ね合わせや反射の様子を作図によって明らかにすることができる。	☐ 波の性質に関心をもち、波の特徴や現象について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主④ 主⑤
第2章 音	☐ 音波が縦波であることや音の三要素、可聴音、超音波について理解する。 ☐ 共振・共鳴やうなりなどの音に関する現象について理解する。また、気柱の共鳴や、弦の固有振動について定量的に理解する。	☐ 音叉、楽器、マイク、パソコン等を用いて様々な音の波形を観察し、音の三要素について説明することができる。 ☐ 共振・共鳴やうなりなどの発生原理について説明することができる。 ☐ 考えてみよう「ギターのしくみ」(P.136)を行い、弦楽器の音の高さと弦の種類・状態との関係性を見いだすことができる。 ☐ 気柱の共鳴に関する実験を行い、測定データから発音体の振動数を見だし、結果について表現することができる。また、開口端補正と実験結果の関連について説明することができる。	☐ 音に関心をもち、気柱の共鳴などの音に関する現象や生活との関わりについて主体的に学習に取り組もうとしている。 速度－時間の関係から重力加速度の大きさを見だし、結果について表現することができる。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④ 主⑤

3 学 期	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流	☐ 静電気の種類や性質，現象及び電子や電荷，電気量について理解している。 ☐ 電流，電圧，電気抵抗の相互の関係を示したオームの法則や電気回路，電力，ジュール熱について理解している。	☐ やってみよう「静電気の正負」(P.146)を行い，物体同士を帯電させ，電気の種類（正・負）を正確に判断することができる。 ☐ 箔検電器を用いて静電誘導の実験観察を行い，静電気の性質及び帯電体の電気の種類（正・負）を調べることができる。 ☐ 電気回路や電力の内容をもとに，白熱電球の接続と明るさの関係について正確に判断することができる。	☐ 静電気と電流に関心をもち，物質の電氣的性質や電気回路，電気の利用について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主④ 主⑤
	第2章 交流と電磁波	☐ 直流・交流の電気の種類や電磁波，電磁誘導，発電・送電及び日常生活での電気の利用について，基本的な仕組みを理解する。	☐ 送電における交流の利点について，変圧器や送電線での発熱に触れながら説明することができる。	☐ 交流と電磁波に関心を持ち，電磁誘導や交流，発電，送電などの電磁気の利用について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主④ 主⑤
	第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用	☐ 人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光，風力などを源とするエネルギーの特性や利用などについて，電気エネルギーへの変換を中心に，これまでに学んだ物理学的な視点から理解する。	☐ 水力，化石燃料，原子力，太陽光，風力などを源とするエネルギーの特性や利用，また，日常生活との関わりについて説明することができる。	☐ エネルギーとその利用について関心をもち，人類が利用可能なエネルギーの特性や利用について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思③ 思④ 主① 主④
	第2章 物理学が拓く世界	☐ 交通，医療，情報ネットワーク，建築，防災など，日常生活や身近な環境への物理学の成果や応用について理解する。	☐ 医療分野における人体の内部の可視化技術のように，日常生活や身近な環境への物理学の成果や応用について，具体例を挙げて説明することができる。	☐ 物理学が拓く世界に関心をもち，日常生活や身近な環境について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思③ 思④ 主① 主④

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物基礎
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	i 版生物基礎（啓林館）		
副教材	二訂版ニューステージ生物図表（浜島書店）、センサー生物基礎（啓林館）		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習方法	授業中心の学習を行い、教科書や副教材を活用し、知識を身に付け、小テストで定着の確認を行う。身につけた知識を活かし、考える力を身に付けるために実験を行ったり、定期考査に初見の思考問題を取り入れる。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知能・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②確認テスト ③実験プリントへの取組状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②実験プリントへの取組状況 ③リフレクションシートの記入内容（学習内容の整理に関する記入）	①課題や授業プリントへの取組状況や提出状況 ②長期休業中の課題及び課題考査 ③リフレクションシートの記入内容（自らの取組への評価に関する記入）

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	40%
主体的に学習に取り組む態度	20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性 2. 生物の多様性 3. 生物の進化の系統 4. 細胞と個体のなりたち 5. 真核細胞の構造 6. 原核細胞の構造	☐ 生物が「細胞からできている」，「生命活動にはエネルギーが必要」，「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解する。 ☐ 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ☐ 教科書 p16～17 の実験を通して顕微鏡の操作法を身につける。	☐ さまざまな哺乳類の比較に基づいて，生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき，説明できる。 ☐ さまざまな生物の比較に基づいて，すべての生物に見られる特徴について考え，共通性を見いだすことができる。 ☐ 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。 ☐ 進化の過程において，真核細胞と原核細胞のどちらが先に現れたのか，理由とともに説明することができる。	☐ 生物の多様性と共通性に関心をもち，主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	7. 生命活動とエネルギー 8. ATP の構造	☐ 生命活動にはエネルギーが必要であり，そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解する。 ☐ ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。	☐ 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。	☐ エネルギーと代謝に関心をもち，主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	9. 生体内の化学反応と酵素 10. 光合成と呼吸	☐ 酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ☐ 生体内の化学反応が，酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ☐ 呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。	☐ 動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら，菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ，説明できる。	☐ 呼吸と光合成に関心をもち，主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

2 学 期	第3章 神経系と内分泌系による調節 21. 恒常性と体液 22. 血液凝固と線溶 23. 恒常性に関わる神経系 24. 自律神経系と脳死 25. ホルモンによる調節 26. ホルモン分泌の調節	☐ 体内での情報伝達が，からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ☐ 自律神経系と内分泌系が，からだを調節するしくみを理解する。	☐ 身近な事例において，からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え，説明することができる。	☐ 体内での情報伝達と調節に関心を持ち，主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	27. 血糖濃度の変化と糖尿病 28. 血糖濃度の調節のしくみ 29. 体温と水分量の調節	☐ 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ☐ 糖尿病の原因を理解する。	☐ 食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから，血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき，説明することができる。 ☐ 食事の前後でのグルカゴンの血液中の濃度がどのように変化するかを考え，説明することができる。 ☐ 血糖濃度とインスリン濃度の変化の1日のグラフを見て，健康な人と糖尿病患者の血糖濃度やインスリン濃度の変化の違いについて考察することができる。 ☐ I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて，糖尿病の検査内容や治療方法について，自ら調べたり，考えたりすることができる。	☐ 体内環境の維持のしくみに関心を持ち，主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

	第4章 免疫 30. 生体防御の概要 31. 異物の侵入を阻止するしくみ 32. 自然免疫のしくみ 33. 獲得免疫の概要 34. 細胞性免疫と体液性免疫 35. 抗体とその利用 36. 免疫記憶とその利用 37. 免疫と病気① 38. 免疫と病気②	☐ 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ☐ 免疫記憶のしくみを理解する。 ☐ 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。	☐ 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。 ☐ 抗原を接種したとき、その抗原に対する抗体量の変化を推測したり、グラフで示したりすることができる。 ☐ 同じ動物種でつくられた血清を用いた血清療法において、2回目以降にアナフィラキシーショックが起こる可能性がある理由を考えることができる。	☐ 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
3 学 期	第5章 植生と遷移 39. 環境と生物 40. 光の強さと植物 41. 森林の階層構造と土壌 42. 遷移の過程 43. 遷移に伴う環境の変化 44. 遷移と世界のバイオーム 45. 日本のバイオーム	☐ いろいろな植生とその特徴を理解する。 ☐ 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ☐ 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ☐ 日本に分布するバイオームについて理解する。	☐ 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 ☐ 森林内にギャップができたとき、森林内の環境や植生にどのような変化が起こるのかを考え、説明することができる。 ☐ 二次遷移が一次遷移に比べて速く進行する理由を考え、説明することができる。 ☐ 地球の気温が上昇すると、バイオームの垂直分布がどのように変化するかを推測することができる。 ☐ 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。	☐ 植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

第6章 生態系とその保全 46. 生態系における生物の役割 47. 種の多様性と食物連鎖 48. 生態系と生態ピラミッド 49. キーストーン種と絶滅 50. 生態系のバランスと変動 51. 人間活動と生態系 52. 生物濃縮 53. 外来生物 54. 生物多様性と生態系の保全 55 生態系と人間生活	☐ 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ☐ 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ☐ 生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ☐ 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。	☐ 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ☐ 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。	☐ 生態系と生物の多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 生態系のバランスと保全に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
---	---	--	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	英語コミュニケーション I
学年・類型	1 学年・全	単位数	3
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I （TOKYO SHOSEKI）		
副教材	DataBase 4500		
科目目標	外国語によるコミュニケーションにおける考え方を働かせ、4 技能 5 領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	本文で扱う文法・語彙・慣用表現の用法や意味を十分理解し、正確に内容を聞き取ることができる。	本文の内容に関する英文を聞き、必要な情報を適切に取捨選択・整理しながら内容を理解できる。	理解が難しい箇所も文脈や背景知識を活用して推測したり、必要な情報を自発的にメモに取ったりすることができる。
読むこと	本文で扱う文法・語彙を理解・運用して読むことができる。	物語では物事を時系列順に整理して因果関係を理解しながら読むことができる。評論では物事の原因や根拠を理解して筆者の主張を読み解くことができる。	理解が難しい箇所を文脈や背景知識を活用して積極的に推測するなど、粘り強く読むことができる。
話すこと （発表）	本文の内容を理解し、ワークシートをもとに、内容を発表することができる。	自分の言葉で本文内の良かったところや重要なポイントを共有できる。	自分の伝えたい事柄を、自分なりの表現や身振りなどを使って粘り強く口頭で発表することができる。
話すこと （やり取り）	本文で扱う文法・語彙・慣用表現の用法や意味を理解し、口頭でのやり取りにおいて正確に用いることができる。	内容に関わる問いに対して自分の言葉で意見を述べながら、相手の意図を理解し、簡単な会話を行うことができる。	文法のポイントを的確に押さえ、自分の表現や身振りなどを使って相手に内容を十分伝えるなど、粘り強くやり取りすることができる。
書くこと	本文で扱う文法の用法や意味を理解し、書く活動において正確に用いることができる。また、興味・関心に関する語句を理解しながら、穴埋めを行うことができる。	レッスンの内容を踏まえて、自分のことについて書くことができる。その理由・エピソードや実現のために必要な情報を適切に収集・整理し、自分の言葉で書くことができる。	自身の将来の夢について、情報の提示順や構成・内容面の十分な吟味を行い、繰り返し推敲をしながら粘り強く文章を書くことができる。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③授業への取組 ④パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④授業への取組 ⑤パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②授業への取組 ③パフォーマンステスト ④課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	Unit 1 What can happen in one second? [題材内容] 学校新聞の記事などを通して、1秒間に世界で起こっていることについて学ぶ。 [言語材料] 受け身／不定詞／動名詞 [言語活動] 1秒間にどのように世界が変化しているかを説明する。 [言語の働き] 聞き直す／回答する	[知識] ☐ 受け身、不定詞、動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 疑問詞やつなぎ言葉について、プレゼンテーションのスタイルに対応した適切な用法を理解している。 [技能] ☐ 疑問詞やつなぎ言葉などを用いて、身のまわりや世界で起きている話題について、聞き手へ問いかけたり、理由や根拠を示すなどしたりしながら、自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。	☐ 情報伝達型プレゼンテーションの場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えている。	☐ 情報伝達型プレゼンテーションの場面で、身のまわりや世界で起きている話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③ 主④
	Unit 2 What do superstitions mean to you? [題材内容] 機内誌の記事などを通して、さまざまな国や地域で信じられている迷信について学ぶ。 [言語材料] 助動詞＋受け身／現在完了進行形 [言語活動] 迷信についての自分の価値観を述べる。 [言語の働き] 驚く／興味や関心を表す	[知識] ☐ 助動詞＋受け身、現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ 条件節と帰結節を用いて、要点を書いたり、具体例を提示したりしながら物事を描写する方法を理解している。 [技能] ☐ 条件節と帰結節などを用いて、迷信や信念について、読み手が誰であるかを意識しながら、要点を書いたり、具体例を提示したりする技能を身に付けている。	☐ ラッキーアイテムを紹介するために、身のまわりの迷信や信念について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して要点や具体例を書いている。	☐ ラッキーアイテムを紹介するために、身のまわりの迷信や信念について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して要点や具体例を書こうとしている。	
	Unit 3 How can we promote sustainability? [題材内容] Eメールのやり取りなどを通して、ゼロ・ウェイスト政策について学ぶ。 [言語材料] 分詞の形容詞用法／関係代名詞 [言語活動] 世界中で人々がどのようにご	[知識] ☐ 分詞の形容詞用法や関係代名詞（省略の形を含む）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ フォーマルな文体でEメールを書き、目的を伝えたり質問をしたりする方法を理解している。 [技能] ☐ 分詞の形容詞用法や関係代名詞（省略の形を含む）などを用いて、フォーマルな文体で、目的を伝えたり質問をしたりする技能	☐ フォーマルなEメールを書く場面で、環境保全に関する内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して目的を伝えたり質問内容を書いたりしている。	☐ フォーマルなEメールを書く場面で、環境保全に関する内容について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、読み手を意識して目的を伝えたり質問内容を書いたりしようとしている。	

	みに関する問題に取り組んでいるかを説明する。 〔言語の働き〕 誘う／断る	を身に付けている。			
2 学 期	Unit 4 What can we learn from native Hawaiians? 〔題材内容〕 博物館のパンフレットなどを通して、ハワイ語やハワイ文化の歴史について学ぶ。 〔言語材料〕 現在完了形の受け身／過去完了形 〔言語活動〕 自分にとって大切な言葉や文化について述べる。 〔言語の働き〕 迷いを伝える／アドバイスする	〔知識〕 □ 現在完了形の受け身、過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 □ 事実と意見を分けたり、ポイントを絞って伝えたりするなど、スピーチのスタイルに対応した適切な方法を理解している。 〔技能〕 □ 身のまわりの言葉や文化に関する話題について、事実や意見を分けたり、ポイントを絞ったりしながら、自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。	□ スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えている。	□ スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③ 主④
	Unit 5 Why do people tell each other stories? 〔題材内容〕 ウェブの記事などを通して、自分が体験したことを聞き手に語る際の秘訣を学ぶ。 〔言語材料〕 SVOC [分詞]／関係副詞 how／助動詞の過去形 〔言語活動〕 互いに話を伝え合う理由を述べる。 〔言語の働き〕 心配事を伝える／援助を申し出る	〔知識〕 □ SVOC [分詞]，関係副詞 how，助動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 □ 体験談を伝えるために、適切な表現や方法を理解している。 〔技能〕 □ 体験談を伝える際の表現や方法を用いて、身のまわりの出来事について、聞き手を引き付けながら、わかりやすく自分の考えや気持ちを話して伝える技能を身に付けている。	□ スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えている。	□ スピーチの場面で、身のまわりの言葉や文化に関する話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを、聞き手にわかりやすく話して伝えようとしている。	

	Unit 6 What are the qualities of a good leader? 〔題材内容〕 オンライン百科事典の伝記などを通して、優れたリーダーシップをもつ人物の経歴を学ぶ。 〔言語材料〕 分詞構文／関係副詞 where [when/why] 〔言語活動〕 優れたリーダーが備えている資質を説明する。 〔言語の働き〕 返答する／相づちを打つ	〔知識〕 □ 分詞構文，関係副詞 where[when/why]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 □ リーダーシップに関連した語いや表現を用いるなどして、人物の略歴を紹介する適切な方法を理解している。 〔技能〕 □ ある人物について、時系列で書いたり、略歴を紹介したりしながら、関連のある情報を簡潔かつ正確に原稿に書く技能を身に付けている。	□ ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書いている。	□ ある人物を紹介するために、関連のある情報を時系列で書いたり、略歴を紹介したりして、読み手を意識しながら簡潔かつ正確に紹介文を書こうとしている。	
3 学 期	Unit 7 Where will you live in the future? 〔題材内容〕 英字新聞の記事などを通して、今住んでいる場所を選んだ理由やそこでの暮らしの魅力について学ぶ。 〔言語材料〕 原形不定詞／仮定法過去完了／過去完了進行形 〔言語活動〕 人々がどのような理由で住む場所を決めているのかを説明する。 〔言語の働き〕 反論する／同意する	〔知識〕 □ 原形不定詞，仮定法過去完了，過去完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 □ 場所に関連した語いや表現を用いるなどして、将来住みたい場所についてのエッセイを書く適切な方法を理解している。 〔技能〕 □ 将来住みたい場所についてのエッセイを書くにあたり、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりしながら、首尾一貫性のある原稿を書く技能を身に付けている。	□ 将来住みたい場所についての主張を展開するために、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりして、読み手を意識しながら首尾一貫性のある原稿を書いている。	□ 将来住みたい場所についての主張を展開するために、パラグラフの構成を意識して書いたり、本論で理由を具体例とともに述べたりして、読み手を意識しながら首尾一貫性のある原稿を書こうとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③ 主④

Unit 8 How do cultures and traditions affect teens' lives? [題材内容] ウェブの記事などを通して、世界中のさまざまな成人の儀式について学ぶ。 [言語材料] 関係代名詞 what／関係代名詞の非制限用法 [言語活動] 日常生活について、外国のティーンエイジャーと自分との類似点や相違点を説明する。 [言語の働き] 習慣を表す／共感する	[知識] ☐ 関係代名詞 what, 関係代名詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ☐ プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、その概要を伝える適切な表現や方法を理解している。 [技能] ☐ プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、その概要を伝える技能を身に付けている。 ☐ メモを活用して、プレゼンテーションを行う技能を身に付けている。	☐ プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、メモを活用して、その概要をわかりやすく話して伝えている。	☐ プレゼンテーションの場面で、外国の高校生の日常生活について、自分の生活との類似点や相違点に触れながら、メモを活用して、その概要をわかりやすく話して伝えようとしている。	
Optional Reading 1 Amelia Bedelia [題材内容] 雇い主の指示を読み違えて勘違いの行動をとってしまう愉快なハウスキーパーの物語。登場人物の行き違いを読み取る。	[知識] ☐ 語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。 ☐ ストーリーで用いられている語、句、文の意味を理解している。 [技能] ☐ 語、句、文の理解を基に、ストーリーの内容について、概要や詳細、作者のユーモア（動詞・動詞句の読み取り間違い）、登場人物の行き違いを読み取る技能を身に付けている。	☐ 自分の考えをまとめるために、ストーリーの内容について、動詞・動詞句が表す意味の違いを捉えたり、そのことで生じ得る行き違いについて考えたりしている。 ☐ 互いの考えを深めるために、行き違いの経験やその時の気持ちについて、伝える内容を整理し、自分の考え・気持ちを話して伝え合っている。	☐ 自分の考えをまとめるために、ストーリーの内容について、動詞・動詞句が表す意味の違いを捉えたり、そのことで生じ得る相手の誤解について考えたりしようとしている。 ☐ 互いの考えを深めるために、行き違いの経験やその時の気持ちについて、伝える内容を整理し、自分の考え・気持ちを話して伝え合おうとしている。	
Optional Reading 2 Information Please [題材内容] 電話がまだ珍しかった時代。当時子供だった語り手と、親切な電話交換手の心の交流を描く感動物語。登場人物の心情を読み取る。	[知識] ☐ 語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。 ☐ ストーリーで用いられている語、句、文の意味を理解している。 [技能] ☐ 語、句、文の理解を基に、ストーリーの内容について、概要や詳細、登場人物の心情を読み取る技能を身に付けている。	☐ 自分の考えをまとめるために、ストーリーの内容について、登場人物の心情を捉えている。 ☐ ストーリーへの理解を深めるために、登場人物の特徴を捉えたうえで、それぞれが経験したエピソードや心情についてある程度まとまった時間を用いて、話して伝え合っている。	☐ 自分の考えをまとめるために、ストーリーの内容について、登場人物の心情を捉えようとしている。 ☐ ストーリーへの理解を深めるために、登場人物の特徴を捉えたうえで、それぞれが経験したエピソードや心情についてある程度まとまった時間を用いて、話して伝え合おうとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	英語	科 目	論理・表現 I
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	Vision Quest English Logic and Expression I Standard （KEIRINKAN）		
副教材	Earthrise 総合英語 数研出版		
科目目標	外国語によるコミュニケーションにおける考え方を働かせ、4技能5領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報を発表したり、伝え合ったりする能力や文章で表現する能力など、特に能動的な表現に関わる力を高める。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	学習する文法事項の意味や働きについて理解し、効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。	学習した文法事項を用いて自分の考えや身近な事柄を原稿などを見ながら口頭で伝えられる。	自分の考えや身近な事柄を筋道を立てて伝え合おうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。
話すこと (やり取り)	学習する文法事項の意味や働きについて理解し、適切な相づちや会話特有の表現を理解する。	学習した文法事項を用いて自分の考えや身近な事柄を即興的に口頭で伝えられる。	自分の考えや身近な事柄を筋道を立てて詳しく話そうとしている。また、自分の発話を振り返り、改善点を見出している。
書くこと	学習する文法事項の意味や働きについて理解している。英語によるライティングの作法を身につける。	学習した文法事項を用いて自分の考えや身近な事柄について、意味的なまとまりのある段落を書ける。	自分の考えや身近な事柄を筋道を立てて詳しく書こうとしている。また、自分の書いたものを振り返り、改善点を見出している。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③授業への取組 ④パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④授業への取組 ⑤パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②授業への取組 ③パフォーマンステスト ④課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	L1. I want to introduce my new friend. 紹介：初対面で行われる自然な会話や学校の習慣を紹介する表現を学ぶ。	文の種類 ☐ さまざまな疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答することができる。 ☐ 単文、重文、複文の構成を理解し、まとまりのある文で表現することができる。	☐ 話す[発表]：自分やパートナーのクラブ活動を紹介できる。 ☐ 書く：学校のルールや好きな科目について、理由や具体例などを加えて説明できる。	応答する／理由を述べる ☐ 相手の発話に適切に応答しようとしている。 ☐ 多様な表現を用い、理由を述べようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④
	L2. Do you want to join our show? 学校生活：学校の文化祭に参加する留学生との会話を通して、学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学ぶ。	文型と動詞 ☐ 5つの文型と There is の構文を理解し、文を組み立てることができる。 ☐ 注意すべき自動詞と他動詞の使い分けができる。	☐ 話す[やり取り]：文化祭に行く予定について話し合うことができる。 ☐ 書く：普段の生活や自分の部屋にあるものについて、具体例や情報を挙げて説明することができる。	賛成・反対する／聞き直す ☐ 賛成・反対の意思を示そうとしている。 ☐ 聞き取れなかったことや理解できなかったことを聞き直そうとしている。	思④ 思⑤ 主① 主② 主③ 主④
	L3. I'm planning a day trip this weekend. 旅行・観光：旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学ぶ。	時制 ☐ 基本時制の構造と概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて、書いたり話したりすることができる。	☐ 話す[発表]：旅行の経験について詳細に話すことができる。 ☐ 書く：最近週末にしたことや予定していることについて、具体的に詳細を書いて伝えることができる。	激励する・励ます／計画する・予定する ☐ 会話の相手を激励したり、励まそうとしている。 ☐ 計画したり、予定したりいることを伝え合おうとしている。	
	L4. Have you ever tried it before? 趣味・関心：趣味や関心のあることについて、その経験を尋ねたり、伝え合ったりする表現を学ぶ。	完了形 ☐ 現在・過去・未来完了形の概念を理解し、それぞれの用法を区別することができる。 ☐ 共に使える語句を使って、適切に文を作ったり、表現したりすることができる。	☐ 話す[やり取り]：スポーツや音楽の経験について伝え合うことができる。 ☐ 書く：行ったことのある場所や初めて何かを経験した時のことについて、考えや気持ち、具体例を挙げて、伝えることができる。	経験を尋ねる／初めての経験を述べる ☐ これまでの経験や初めての経験について、様々な表現を用いて尋ねたり、伝えたりしようとしている。	
2 学期	L5. What do you want to do after school? 将来・進路：将来や進路について、自分の意見や考えを伝えたり、相手に尋ねたりする表現を学ぶ。	助動詞 ☐ 助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができる。	☐ 話す[やり取り]：将来の夢について伝え合うことができる。 ☐ 書く：家のルールや小学生の頃のこと、またいつかしてみたいことについて、自分の主張に情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠を加えて書いて伝えることができる。	許可を求める・依頼する／義務・必要を表す／回想する・自省する ☐ 会話の相手に許可を求めたり、依頼しようとしている。 ☐ 会話の内容に合わせて義務や必要性を伝えたり、過去の事柄を回想したり、自省しようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④

	L6. Did you hear about the new shop? 日常生活：日常生活で発話される生徒同士の自然な会話の流れを学び、自分の感情や物事を詳細に表現することができる。	受動態 ☐ 受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切に伝えることができる。	☐ 話す[やり取り]：自身の買い物について詳細に伝えることができる。 ☐ 書く：お薦めの小説や最近驚いたことについて、情報や考え、気持ちなどを適切に書いて伝えることができる。	原因・影響を表す／喜び・驚きを表す ☐ 様々な表現を用いて、原因や影響について表現しようとしている。会話の内容に合わせて喜びや驚きの感情を表そうとしている。	思⑤ 主① 主② 主③ 主④
	L7. I'm happy to have you with us. 交流・交際：誕生日会を舞台に繰り広げられる友人同士の自然な会話のやり取りから、感情を表す様々な表現を学ぶ。	不定詞 ☐ 不定詞の様々な用法を学び、より詳細な情報を伝えることができる。	☐ 話す[やり取り]：受け取った贈り物について詳細に伝えることができる。 ☐ 書く：自分の夢、高校生が日常生活で行うべき大切なこと、日常生活でしないように気を付けていることについて、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に書いて伝えることができる。	感謝する／謝罪する／弁解する ☐ 感謝・謝罪・弁解する際に頻繁に使用される表現を学び、会話の相手に感情を適切に伝えようとしている。	
	L8. What sport do you like playing? スポーツ・健康：スポーツチームについて発話される会話からチームに誘ったり、見学を勧めたりする表現を学ぶ。	動名詞 ☐ 動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができる。	☐ 話す[発表]：スポーツをすることの利点について発表することができる。 ☐ 書く：得意なスポーツや活動、楽しみにしていることについて、情報や具体的を加えて詳細に書いて説明することができる。	誘う・申し出る／推薦する ☐ 相手を誘ったり、申し出たりする表現を使おうとしている。 ☐ 会話の内容に合わせて相手に物事を適切に推薦しようとしている。	
	L9. Digital media has come a long way. メディア・コミュニケーション：留学生とのやり取りから、メディアを通じたコミュニケーションについて意見を述べたり、情報を加えて詳しく説明する会話を学ぶ。	分詞 ☐ 名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができる。	☐ 話す[発表]：自分自身や自身の性格について発表することができる。 ☐ 書く：家族や友人と撮った写真や日本人の一般的な特徴について、具体例や詳細な情報を加えて文章を書いて伝えることができる。	描写する／判断の根拠を述べる ☐ 人や物事について情報を加えて詳しく説明しようとしている。 ☐ 判断の根拠を示す表現を使用して論理的に伝えようとしている。	
3 学期	L10. That's why I decided to go back. 文化・異文化理解：日本や他国の文化や習わしについて話されるやり取りから、日本特	関係詞 ☐ 関係詞を用いて複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表すことができる。	☐ 話す[発表]：日本の文化や人たちについて紹介することができる。 ☐ 書く：家族や友だちの紹介や今あなたに必要なもの、どんな国[市、町]に住みたいかについ	定義する／言い換える／経緯を説明する ☐ 人や物事、経緯を詳細に説明したり、言い換えや要約したりしようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思②

	有の言葉や文化，また異文化について紹介したり，その違いについて述べる会話表現を学ぶ。		て，論理の展開を工夫しながら詳細に伝えたり，意見や主張の適切な理由や根拠とともに文章を書いて伝えることができる。		思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③ 主④
	L11. Which do you prefer, cheaper beans or expensive ones? 国際問題：フェアトレード(公正取引)について話される会話から，物事を提案したり，相手の発言を称賛する仕方を学ぶ。	比較 ☐ 比較に関する様々な用法と表現を理解し，物事の状態を分かりやすく説明することができる。	☐ 話す[やり取り]：国際問題について自分の考えを伝え合うことができる。 ☐ 書く：本と映画どちらに興味があるか，また最も幸せなときについて，自分の主張の理由や根拠を加えて，詳しく説明することができる。	提案する／称賛する ☐ 提案する表現や称賛する表現を学び，適切に提案と受け答えをしようとしている。	
	L12. I think it's a good idea. 社会問題：日本の社会問題について話されるやり取りから，自分の意見や考えを伝えたり，相手の助言を求める会話を学ぶ。	仮定法 ☐ 仮定法を用いて，事実と違うことや実際には起こりえないことを述べるすることができる。	☐ 話す[発表]：日本の社会問題について自分の意見を発表することができる。 ☐ 書く：タイムマシーンがあったら過去と未来どちらに行きたいか，また自分や家族に望むことについて，意見や主張の理由や根拠を具体的に示して，伝えることができる。	助言を求める・助言する／願望を表す ☐ 助言や願望を表す様々な表現を学び，相手や自分の立場に応じた適切な助言を求めたり，伝えたりしようとしている。 ☐ 会話の内容に合わせて，願望を表す表現を使って自分の意志や要望を伝えようとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育
学年・類型	1年・全	単位数	2
教科書	高等学校保健体育		
副教材	高等学校保健体育ノート		
科目目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて他力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	第一体育館・第二体育館・グラウンド・25mプールなどの体育施設を活用し、多種多様な実技を行う。自己の課題(体力面・技能面・精神面)を改善・向上に向け取り組み、個人学習カードを活用して活動の見直しや振り返りを行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①運動技能テスト・記録測定 ②発表会の内容 ③授業への取組状況	①グループノートや個人学習カードの内容 ②発表会の活動状況 ③授業への取組状況	①授業への取組状況 ②グループノートや個人学習カードの提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	30%
主体的に学習に取り組む態度	30%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	体づくり運動 体力を高める運動 ラジオ体操第2 スポーツテスト	☐ 体力を高める運動のしかたについて理解し、実践できる。 ☐ ラジオ体操第2について効果を理解し、正しく、力強く行うことができる。	☐ 自己の体力課題をみつけ、体力向上に向け継続的に取り組むことができる。 ☐ 仲間と教え合いながらラジオ体操第2を覚え、自己の体を正しく動かすことができる。	☐ 仲間と協力して運動に対して積極的に取り組んでいる。 ☐ 健康・安全を確保し、運動に自主的に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思③ 主① 主②
	水泳 クロール・平泳ぎ	☐ それぞれの技術には効率的に泳ぐためのポイントがあることを理解している。	☐ 自己の泳ぎ方の課題を見つけ、学習した知識や技能を活用して課題への取り組み方を工夫している。	☐ 積極的に自己の泳ぎ方を分析し、仲間と教え合いながら取り組もうとしている。	
	体育理論 運動・スポーツの文化的特徴	☐ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解している。	☐ 現代生活において運動とスポーツの意義を関連して考えることができる。	☐ スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、自主的に取り組もうとしている。	知③ 思③ 主①
2 学 期	選択球技 バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向け実践できる。	☐ 自己や仲間と協力しながら工夫し、課題解決に向け、効果的な運動の行い方や技術向上について取り組むことができる。	☐ 協力して準備や片付けをすることができる。 ☐ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思③ 主① 主②
	選択武道 柔道・剣道	☐ 技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解している。	☐ 技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	☐ 仲間と協力し、教え合いながら積極的に取り組もうとしている。 ☐ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。	
	ダンス 現代的なリズムダンス フォークダンス 創作ダンス	☐ リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる。	☐ 自己や仲間の動きや表現を分析して、良い点や修正点を指摘することができる。	☐ 仲間の表現や踊りを認め合うなど、互いに共感し高め合おうとしている。	
	陸上競技 長距離走	☐ 持久的な体力向上の方法について理解し、運動を実践できる。	☐ 自分に適したスピードを見つけ、課題を持って取り組んでいる。	☐ 自己の記録に挑戦し、積極的に走ろうとしている。	
3 学 期	陸上競技 長距離走	☐ 持久的な体力向上の方法について理解し、運動を実践できる。	☐ 自分に適したスピードを見つけ、課題を持って取り組んでいる。	☐ 自己の記録に挑戦し、積極的に走ろうとしている。	知③ 思③ 主①
	体育理論 運動・スポーツの文化的特徴	☐ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解している。	☐ スポーツの経済的効果や環境・社会へもたらす影響について、自己の提案を言葉や文章などで他者に伝えている。	☐ スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、自主的に取り組もうとしている。	
	選択球技 バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向け実践できる。	☐ 自己や仲間と協力しながら工夫し、課題解決に向け、効果的な運動の行い方や技術向上について取り組むことができる。	☐ 協力して準備や片付けをすることができる。 ☐ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	知② 知③ 思① 思②

					思③ 主① 主②
--	--	--	--	--	----------------

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健
学年・類型	1年・全	単位数	1
教科書	高等学校保健体育		
副教材	高等学校保健体育ノート		
科目目標	個人及び集団の生活における健康安全管理についての理解を深め、健康に関する問題を自主的に解決する能力や態度を高めて、心身の調和的な発達を図る。 生涯を通じて健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりに寄与し、健康的な社会環境づくりを実践できる資質や能力を育成する。		
学習方法	教科書や副教材を活用し、知識をしっかりと身につける。さらにグループ学習や発表を通して意見交換を行い、思考力・判断力・表現力を身につけ知識を深める。自ら調べ学習に取り組み、知識の深化を行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代社会と健康、安全な社会生活とその活用について、個人だけでなく社会生活について総合的に理解をしている。 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、健康を保持増進する技能を身につけ、実践することができる。	・健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断することができる。 ・健康の保持増進について、その時々々の目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を実践しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識技能の問題） ②授業への取り組み状況（確認テスト）	①定期考査（思考判断表現の問題） ②課題プリントの取り組み状況	①ノートや課題プリントへの取り組み、提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	30%
主体的に学習に取り組む態度	30%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	(01)健康の考え方や成り立ち	☐ 健康には多様な考え方があること、また、健康の成り立ちには様々な要因があることを理解している。	☐ 自分の健康に関する考えを持ち、説明することができる。	☐ 健康の考え方や成り立ち、わが国の健康問題について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 思② 主①
	(02)私たちの健康のすがた	☐ わが国の健康水準の変化とその背景について理解している。	☐ わが国の健康問題を例を上げて説明することができる。		
	(03)生活習慣病の予防と回復	☐ 生活習慣病には多くの種類があること、がんの種類も多くあり、多様な要因があることを理解している。また、生活習慣病やがんには多くの治療法があることを理解している。	☐ 生活習慣病の予防法、がんの予防法について例を挙げて説明することができる。	☐ 生活習慣病やがんの予防、治療、回復について、課題解決に向け主体的に取り組もうとしている。	
	(04)がんの原因と予防				
	(05)がんの治療と回復				
	(06)運動と健康	☐ 健康と運動の関係について理解し、実践できる。	☐ 目的に応じた健康的な運動の仕方について例を挙げて説明することができる。	☐ 運動、食事、休養、睡眠と健康について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(07)食事と健康	☐ 食事と健康の関係について理解し、健康を考えた食事を実践できる。	☐ 健康的な食事の取り方について、自分に合った食事の方法を説明することができる。		
	(08)休養・睡眠と健康	☐ 健康と休養・睡眠について適切な取り方を理解し、実践できる。	☐ 健康的な休養・睡眠の取り方について、自分に合った方法を説明することができる。		
2 学期	(09)喫煙と健康	☐ 喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解している。	☐ 喫煙対策について個人と社会に分けて例を挙げて説明することができる。	☐ 喫煙、飲酒と健康について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 知② 思① 思② 主①
	(10)飲酒と健康	☐ 飲酒による健康への短期的影響や長期的影響を理解している。	☐ 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例を挙げて説明することができる。		
	(11)薬物乱用と健康	☐ 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解し、薬物乱用防止の対策について理解している。	☐ 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	☐ 薬物乱用と健康について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(12)精神疾患の特徴	☐ 精神疾患の発病の要因や症状について理解している。また、その予防や治療についても理解している。	☐ 現代社会における精神保健の課題を挙げることができる。また、精神疾患の早期発見や適切な治療や回復にはどのような社会環境が必要か説明することができる。	☐ 精神疾患の特徴、予防、回復について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(13)精神疾患の予防				
	(14)精神疾患からの回復				

	(15)現代の感染症	☐ 感染症について潜伏期間や感染力を含めて理解している。	☐ 新興感染症や再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明することができる。	☐ 現代の感染症やその予防、性感染症・エイズについて課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(16)感染症の予防	☐ 感染症の予防対策について理解し、実践できる。	☐ 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明することができる。		
	(17) 性感染症・エイズとその予防	☐ 性感染症とエイズがほかの感染症と異なる点を理解している。	☐ 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげ説明することができる。		
	(18) 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり	☐ 意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解している。	☐ 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげ説明することができる。	☐ 健康に関する意思決定・行動選択について課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	(19)健康に関する環境づくり	☐ 社会環境の健康への影響について理解している。	☐ ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明することができる。	☐ 健康に関する環境づくりについて課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
3 学 期	(01)事故の現状と発生要因	☐ 事故の実態と被害の実態について理解している。	☐ 事故の発生状況を考え、人的要因や環境要因など原因を分析することができる。	☐ 事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通における安全について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	知① 知②
	(02)安全な社会の形成	☐ 安全のための必要な個人の行動について理解している。	☐ すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について説明することができる。		思① 思②
	(03)交通における安全	☐ 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解している。	☐ 交通事故における責任を3つに分けて説明することができる。		主①
	(04)応急手当の意義とその基本	☐ 応急手当の意義について理解している。	☐ 傷病者を発見したときに確認・観察ポイントを上げることができる。	☐ 応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当、心肺蘇生法について課題解決に向け主体的に取り組もうとしている。	
	(05)日常的な応急手当	☐ 日常的なケガや熱中症の応急手当の手順や方法について理解しており、実践することができる。	☐ 日常的なケガや熱中症の応急手当の手順や方法について説明することができる。		
	(06)心肺蘇生法	☐ 心肺蘇生法の方法と手順について理解しており、実践することができる。	☐ 心肺蘇生法の方法や手順について説明することができる。		

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	音楽 I
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	MOUSA①（教育芸術社）		
副教材	Music Note		
科目目標	（１）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 （２）自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 （３）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
学習方法	A表現(1)歌唱(2)器楽(3)創作、B鑑賞 A表現の分野とB鑑賞の分野を〔共通事項〕をもとに関連させながら教科書や副教材を中心に知識や技能を身に付けたり、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。また、合唱や合奏、グループ活動を通して主体的・協働的に音楽表現を生み出したり音楽を評価してよさや美しさを味わって聴いたりする。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び多様性について理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。【技能】	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①実技テスト（実技発表） ②ワークシート	①批評文 ②ワークシート	①観察 ②ワークシート

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 30%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	正しい発声を身に付けよう 「校歌」「翼をください」 「若者のすべて」	☐ 姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法など、音楽表現をするために必要な知識や技能を身に付けている。 ☐ 曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりを理解している。【知識】 ☐ 声の音色や強弱、旋律などの音楽的な要素を生かした表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。【技能】	☐ 姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などに気をつけて曲にふさわしい表現になるよう工夫している。 ☐ 曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりを感じ取り、音色や強弱、旋律などの音楽的な要素を知覚し、それらを生かしてどのように歌うかについて表現意図をもっている。	☐ 姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法などに関心を持ち、音楽表現と結びつけて歌うことを心がけている。	知① ② 思② 主① ②
	ヴァイオリンに挑戦しよう 「きらきら星」	☐ 楽器の特徴や音色、基本的な奏法を理解している。【知識】 ☐ 楽器の基本的な奏法を身に付けている。【技能】	☐ どのように身体を使うと楽器の特徴や音色を生かした奏法を習得できるかをイメージしている。	☐ 楽器の特徴や音色に関心をもち、それらを生かして基本的な奏法を身に付ける学習に主体的に取り組んでいる。	知① ② 思② 主① ②
	オペラに親しもう 「カルメン」鑑賞	☐ 劇中の楽曲の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解している。【知識】	☐ 劇中の楽曲のリズムや旋律、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことに関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	☐ オペラに興味を持つとともに、場面の状況や登場人物の心情などを手がかりに音楽の特徴を感じ取る学習に主体的に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②
	オペラの場면을イメージし、 「ハバネラ」「闘牛士の歌」を豊かな表現で歌おう	☐ 音楽の構造や歌詞の内容、場面の状況、登場人物の心情などを理解している。【知識】 ☐ 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。【技能】	☐ 楽曲のリズムや旋律、構成を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したことに関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	☐ 物語の内容、登場人物の役割や心情などが言葉や声に表現されていることに関心をもち、意欲的に歌唱に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②
	日本の伝統音楽を鑑賞しよう 雅楽「陵王」鑑賞 能「道成寺」鑑賞	☐ 能や雅楽の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	☐ 音色、テクスチュア、構成を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したことに関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美	☐ 能や雅楽の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知② 思② 主① ②

			しさを自ら味わって聴いている。		
2 学 期	ミュージカルを鑑賞しよう 「レ・ミゼラブル」	☐ 「レ・ミゼラブル」の内容及び楽曲の特徴と文化的・歴史的背景を理解している。【知識】	☐ 音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、楽曲を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	☐ 物語の内容、登場人物の役割や心情などが声・楽器・舞踊などに表現されていることに興味をもち、意欲的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②
	ミュージカル・ナンバーを歌おう 「夢やぶれて」「民衆の歌」	☐ 物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情などと曲想との関わりを理解する。【知識】 ☐ 曲種にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。【技能】	☐ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、曲想を物語の背景や登場人物の心情などと関わらせて感じ取り、自分なりのイメージでどのように歌うかについて表現意図をもっている。	☐ 物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情などと曲想との関わりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②
	歌曲に親しみ、独唱に挑戦しよう 「夏の思い出」 「Heidenroslein」 「Caro mio ben」	☐ 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解している。 ☐ 姿勢や身体の使い方、呼吸法、発声法、言葉の発音など、音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	リズム、旋律、拍子を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	☐ 歌と伴奏それぞれの役割に関心をもち、調和の取れた表現をする学習に主体的に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②
3 学 期	オリジナルチャイムをつくろう 自分のイメージに合ったチャイムづくり	☐ 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。【知識】 ☐ 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身に付け、創作で表している。【技能】	☐ リズム、旋律、拍子を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	☐ リズム、旋律、拍子に関心をもち、表したいイメージをもちながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	知② 思① ② 主① ②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	美術
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	光村図書		
副教材	なし		
科目目標	美術の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしていくこと。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め、見通しを持って取り組むこと。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養うこと。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていくこと。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 - 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①作品 ②確認テスト ③学習シート ④授業への取り組み状況	①作品 ②確認テスト ③学習シート ④授業への取り組み状況	①作品 ②学習シート ③授業への取り組み状況

各学期及び学年の成績算出方法について
3つの観点より評価を行っていきます。題材によっては、2つの観点や1つの観点からのみ評価を行う場合もあります。 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 30％ 主体的に学習に取り組む態度 30％

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	色の特徴を知ろう ・色の性質 ・色の効果	☐ 色の性質や効果について理解している。	☐ 色が社会にもたらす効果や役割に目を向けようとしている。	☐ 集中力を欠かすことなく、学習活動に取り組もうとしている。	知② 知④ 思② 思④ 主② 主③
	ポスタリゼーション ・色の作り方 ・平塗りの基礎	☐ 課題を理解している。 ☐ 材料の特性を理解している。 ☐ 他教科や体験からの学びを活用しながら理解に深まりを持たせている。	☐ 画面全体のバランスを考え対象を捉えようとしている。（造形） ☐ 自分なりの視点、技術をもって、課題内容を理解しようとしている。（描写） ☐ 自分なりの色彩表現が活かされ、独創性の芽が感じられる。（色感）	☐ 支持体、材料の特徴を活かした表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 課題の目的を積極的にとらえ、表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 集中力を欠かすことなく、表現の可能性に取り組もうとしている。	知① 知③ 知④ 思① 思③ 思④ 主① 主② 主③
2 学期	西洋美術史 ・古代～印象派	☐ 課題そのものを理解している。 ☐ 答えるべきことがらの内容について理解している。 ☐ 専門用語の意味などについて理解している。		☐ 集中力を欠かすことなく、学習活動に取り組もうとしている。	知② 知④ 主② 主③
	アニメーション ・キャラクターデザイン ・コマ撮り	☐ 課題を理解している。 ☐ 材料、機材等の特性を理解し、的確に使用できている。 ☐ 他教科や体験からの学びを活用しながら理解に深まりを持たせている。	☐ 自分なりのテーマで、絵コンテを作成しようとしている。 ☐ テーマに沿ったキャラクターをデザインしようとしている。 ☐ 自分なりの表現が活かされ、独創性の芽が感じられる。	☐ クレイアニメーションの特徴を活かした表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 課題の目的を積極的にとらえ、表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 集中力を欠かすことなく、表現の可能性に取り組もうとしている。	知① 知③ 知④ 思① 思③ 思④ 主① 主② 主③
	西洋美術史 ・キュビズム～近代美術	☐ 課題そのものを理解している。 ☐ 答えるべきことがらの内容について理解している。 ☐ 専門用語の意味などについて理解している。		☐ 集中力を欠かすことなく、学習活動に取り組もうとしている。	知② 知④ 主② 主③

	日本美術史 ・ 仏像	☐ 課題そのものを理解している。 ☐ 答えるべきことがらの内容について理解している。 ☐ 専門用語の意味などについて理解している。		☐ 集中力を欠かすことなく、学習活動に取り組もうとしている。	知② 知④ 主② 主③
3 学 期	デッサンの基礎 ・ 透視図法 ・ 鉛筆デッサン	☐ 課題を理解している。 ☐ 対象物の構造を理解している。 ☐ 他教科や体験からの学びを活用しながら理解に深まりを持たせている。	☐ 画面全体のバランスを考え対象を捉えようとしている。(造形) ☐ 自分なりの視点、技術をもって、課題内容を理解しようとしている。(描写) ☐ 自分なりの色彩表現が活かされ、独創性の芽が感じられる。(色感)	☐ 支持体、材料の特徴を活かした表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 課題の目的を積極的にとらえ、表現の工夫に取り組もうとしている。 ☐ 集中力を欠かすことなく、表現の可能性に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③
	現代の美術		☐ 論理的に、わかりやすく展開しようとしている。(構成) ☐ 自分なりの視点をもって、課題を理解しようとしている。(解釈) ☐ 自分なりの考え方が書かれていて、独創的に表現しようとしている。(考察)	☐ 誤字・脱字がなく、「てにをは」など文末表現に間違いがない。 ☐ 文章の主語・述語が対応して相手にわかり易く伝わるような表現に取り組もうとしている。 ☐ 適切な語彙を用いている。	思③ 思④ 主② 主③

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	芸術	科 目	書道 I
学年・類型	1 学年・全	単位数	2
教科書	高等学校 芸術科（書道）書 I（光村図書）		
副教材	なし		
科目目標	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などのついて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯に渡りわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習方法	授業では、書作品の鑑賞や実技を中心に行います。 「課題を鑑賞する→臨書する→問題点を理解する→繰り返し技術を習得する→練習過程を振り返る」といった一連の過程で作品制作をします。 毎時間、真剣にそして積極的に取り組んでください。他者の作品を鑑賞、互評する活動も行います。 創作作品を制作する際は、自分を見つめ、今の自分を表現できるようにしましょう。 各単元後小テスト、各学期1回確認テストを行う予定です。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 - 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 実技 ② 小テスト ③ ワークシート	① 実技 ② 鑑賞・互評カード ③ 単元後の感想の内容	① 単元後の感想 ② 提出物 ③ 授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 30% 作品によっては2つの観点や1つの観点からのみ評価を行う場合もあります。

学 期	学習内容	評価基準（到達目標B基準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	鑑賞	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ☐ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ☐ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。 ☐ 書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。	☐ 作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ☐ 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	☐ 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知③ 思② 主① 主② 主③
	楷書の学習 1 孔子廟堂碑 2 九成宮醴泉銘 3 顔氏家廟碑 4 牛橛造像記 5 楷書創作作品制作品	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 用具・用材の特徴と表現効果の関わりについて理解している。 ☐ 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【技能】 ☐ 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法を身に付けている。 ☐ 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	☐ 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ☐ 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	☐ 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

2 学 期	行書の学習 1 蘭亭序 2 風信帖	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 用具・用材の特徴と表現効果の関わりについて理解している。 ☐ 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【技能】 ☐ 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法を身に付けている。 ☐ 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	☐ 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ☐ 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	☐ 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	仮名の学習 鑑賞	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ☐ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ☐ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。 書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。	☐ 作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ☐ 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	☐ 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知② 知③ 思② 思③ 主① 主② 主③

	仮名の学習 1 平仮名 2 連綿 3 蓬萊切	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【技能】 ☐ 古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技法を身に付けている。 ☐ 連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。	☐ 古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ☐ 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	☐ 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思② 思③ 主① 主② 主③
	漢字仮名交じりの書鑑賞	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ☐ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ☐ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。 ☐ 書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。	☐ 作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ☐ 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	☐ 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知③ 思② 思③ 主① 主② 主③

	漢字仮名交じりの書の学習 写真と書	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【技能】 ☐ 目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている。 ☐ 漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。	☐ 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ☐ 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ☐ 名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。	☐ 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
--	----------------------	--	--	--	--

3 学 期	仮名の学習 鑑賞	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ☐ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ☐ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。 ☐ 書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。	☐ 作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ☐ 生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	☐ 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	知② 知③ 思② 思③ 主① 主③
	1 平仮名 2 連綿 3 蓬萊切	【共通事項】 ☐ 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 書を構成する要素について、それらの相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。 【知識】 ☐ 用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ☐ 線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【技能】 ☐ 古筆に基づく基礎的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ☐ 連綿と単体、線質や字形を生かした表現の技能を身に付けている。	☐ 古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ☐ 意図に基づいた表現について構想し工夫している。	☐ 主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主③

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	家庭	科目	家庭基礎
学年・類型	1年・全	単位数	2
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）		
副教材	2025年度家庭科学学習ノート（熊本県版）		
科目目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生涯を通して課題を解決する力を養い、人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。		
学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活で生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにする。実習や課題に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ必要に応じて周囲と協力して進める。各課題は期限内に提出する。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況の評価する問題を出題） ②知識・技能に関する確認課題	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②ワークシート、ノート、作品、ホームプロジェクト等課題	①授業におけるワークシート・ノート等の提出状況 ②作品、ホームプロジェクト等課題の提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について
知識・技能 40% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 30%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	学習の進め方について 学校家庭クラブについて 第1章 生涯を見通す ○ライフプラン作成 ○自立度チェック	☐ 生涯発達の視点から、自己と他者、社会との関わりや各ライフステージの特徴と課題を理解している。 ☐ 必要な情報の収集と整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定することの重要性について理解を深めている。	☐ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について思考を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ これから学習を主体的に取り組もうとしているか。 ☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2章 人生をつくる ○生活時間調査 ○家事労働の分担	☐ 生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 ☐ 家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 ☐ 家族・家庭生活を取り巻く社会環境および法律の変化や課題について理解を深めている。 ☐ 家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	☐ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想するなど、思考を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第6章 食生活をつくる ○実習「食物技術検定4級相当の力をつける」 ○食生活チェック ○献立作成	☐ 健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ☐ 食品衛生について理解している。 ☐ ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ☐ 食品の栄養的特質について理解している。 ☐ 食品の調理上の性質について理解している。 ☐ ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ☐ 自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につけている。 ☐ おいしさの構成要素について理解している。 ☐ 目的に応じた調理に必要な技能を身につけている。	☐ 食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ☐ 食の安全について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

	○ホームプロジェクトの実施計画	☐ ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 ☐ 実践に必要な情報の収集と整理を行い、生活課題に対応した意思決定することの重要性について理解を深めている。	☐ 自己の家庭生活や地域の生活と関連づけて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践する計画を立てることができる。 ☐ 実施計画を評価・改善し、実践に必要な実態調査や調べ学習したことを論理的に表現している。 ☐ 実践し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知② 思② 主① 主②
2 学 期	○ホームプロジェクトの発表	☐ ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動を実施した成果を伝える技能を身につけている。	☐ 自己の家庭生活や地域の生活と関連づけて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知② 思② 主① 主②
	第7章 衣生活 ○実習「基礎縫い」	☐ ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ☐ 被服材料について理解している。 ☐ 保有する被服の有効な活用や補修、生活者として自立する上で必要な技能を身につけている。	☐ 被服の文化や資源について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。 ☐ 持続可能な社会を目指して、安全で安心な衣生活と消費について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

第7章3 衣生活	☐ 被服構成について理解している。 ☐ 被服衛生について理解している。 ☐ 被服の計画・管理に必要な技能を身につけている。 ☐ 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。	☐ 被服の機能性や快適性について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
第3章 子どもと共に育つ ○妊婦体験・保育体験	☐ 乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ☐ 親の役割と保育について理解している。 ☐ 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけている。 ☐ 子どもや高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ☐ 子育て支援について理解している	☐ 子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
第4章 超高齢社会を共に生きる ○車いす体験	☐ 高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ☐ 高齢期の心身の特徴について理解している。 ☐ 高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ☐ 生活支援に関する基礎的な技能を身につけている。	☐ 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
第5章 共に生き、共に支える ○家族を支える社会システム	☐ 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ☐ 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	☐ 他世代に関する学習を踏まえつつ、家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

3 学 期	第7章 経済生活を営む ○ライフサイクルゲーム ○私の命を育んだお金	☐ 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ☐ 生活情報を適切に収集・整理できる。 ☐ 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解している。 ☐ 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。 ☐ 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。 ☐ 家計の構造と家計管理について理解している。 ☐ 生活における経済と社会との関わりについて理解している。	☐ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ☐ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。 ☐ 責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第8章 住生活をつくる ○間取りの読み方 ○ライフステージと住まい	☐ 住生活の変遷や文化、住居の機能について理解している。 ☐ 健康で快適な住生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ☐ 適切な住居の計画・管理に必要な技能を身につけている。 ☐ ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ☐ 防災などの安全や健康な住生活、環境に配慮した住居の機能について理解している。	☐ 住居の機能性や快適性について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。 ☐ 住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ☐ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な住生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

3 学 期	第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する ○学校家庭クラブ活動 雑巾作り	☐ 生活と環境との関わりについて理解している。 ☐ 持続可能な消費について理解している。 ☐ 持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 ☐ 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ☐ 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	☐ 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について理解を深め、考察したことを論理的に表現している。 ☐ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 ☐ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
-------------	--	---	--	---	--

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	情 報	科 目	情 報 I
学年・類型	1 学年・全	単位数	2 単位
教科書	高等学校情報 I（数研出版）		
副教材	① 進研 WINSTEP 情報 I（ラーズ） ② スタディサプリ 通年講座「ベーシックレベル情報 I」、「高1・高2・高3 情報 I <プログラミング編>」		
科目目標	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得するとともに、情報を主体的に活用し、情報化社会に積極的に参画できる態度を育成する。		
学習方法	座学での説明を主体としながら授業を展開していくが、それとともにパソコンを使った実習形態（タイピング等の技能やハード及びソフトウェアの活用法）も随時行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。また、授業や家庭学習など種々の場面で努力する姿勢を示している。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査 ② 課題内容 ③ 確認テスト	① 定期考査 ② 課題内容 ③ 確認テスト	① 実習課題やノート、小テストへの取組状況や提出状況 ② 授業への取組状況 ③ タイピング記録表 ④ スタディサプリ取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
・ペーパーテストは各学期の期末考査のみ行い、各学期の成績は100点満点で評価する。 ・観点別評価の割合は次のとおりである。 - 知識・技能 40% - 思考・判断・表現 40% - 主体的に学習に取り組む態度 20% ・学年成績は1学期から3学期までの評点を平均し、5段階で評価する。

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	情報とメディア	☐ 「情報」とは何かを理解している。 ☐ 「メディア」という言葉をキーワードに、情報の特徴とメディアの意味について理解している。	☐ 「情報」がもつ意味やはたらきについて理解している。 ☐ 情報を表現するための適切な表現形式について考え、判断している。	☐ 情報の信頼性や情報を検証する方法について関心をもち、積極的に情報を検証しようとしている。 ☐ 情報を適切に表現するための表現形式について関心をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	情報社会における法とセキュリティ	☐ 情報社会の問題点を踏まえ、情報セキュリティの重要性を認識し、その対策方法を理解している。	☐ 情報技術と社会との関連性を理解し、法規や制度を視野に置いた適切な活用方法を身につけている。	☐ 情報社会を支える法規・制度について意欲的に学ぼうとしている。	
	情報技術が社会に及ぼす影響	☐ 情報格差、ネット依存症、ネット上のトラブルや、詐欺などの犯罪の実際を学び、情報化が社会に及ぼす影響を理解している。	☐ 情報技術の発展が社会や人に及ぼしている影響について、よい面と悪い面の両面から考え、判断している。	☐ インターネット上のトラブルへの対策について関心をもち、主体的に対応しようとしている。	
	情報のデジタル表現	☐ アナログとデジタルの違い、情報量の概念を理解している。 ☐ ビットの概念、2進数による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解している。 ☐ データ圧縮の原理と具体例について理解している。	☐ 2進法、10進法、16進法の数の変換の方法について考え、その結果を適切に表現している。 ☐ 音、画像、動画をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。 ☐ データ圧縮のしくみについて考え、その結果を適切に表現している。	☐ デジタル情報がどのように表されるかについて関心をもち、積極的に活用しようとしている。 ☐ 数値の情報がデジタル情報としてどのように表されるかについて関心をもっている。	
2 学期	コミュニケーション手段の発展と特徴	☐ 古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発達について理解している。	☐ 情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことについて考え、その結果を適切に表現している。	☐ コミュニケーションの手段として通信が発達してきた歴史に関心をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③

	情報デザイン	☐ 情報伝達メディアの性質を知り、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を習得している。	☐ コミュニケーションの目的や受け手の状況に応じて、情報をどのように活用・表現すればよいか考え、その結果を適切に表現している。	☐ コンピュータを活用して情報を受け手にわかりやすく表現することに関心を持ち、積極的に工夫している。	主① 主② 主③
	プレゼンテーション	☐ プレゼンテーションの意味とその重要性、プレゼンテーションの手法を理解している。	☐ 関連ソフトウェアの使い方を身につけている。	☐ 効果的な資料作成や発表に関心を持ち、積極的に工夫している。	
	コンピュータのしくみ	☐ 情報をデジタル化し処理する上で基礎となるコンピュータの基本的なしくみを理解している。	☐ コンピュータの中の CPU やメモリ、補助記憶装置の役割について考えている。	☐ コンピュータの本体や周辺装置に関心を持ち、積極的に活用しようとしている。	
	プログラミング	☐ 条件分岐や反復など、基本的なプログラミングの流れを理解している。	☐ アルゴリズムから適切なプログラムが作成できている。	☐ 意図しない結果が得られたときに、計算の手順などに目を向けて改善しようとしている。	
	モデル化とシミュレーション	☐ モデル化の手順やシミュレーションの方法を学び、問題解決に向け各種情報を分析していく流れを理解している。	☐ シミュレーションの結果を評価し、その結果を適切に表現している。	☐ シミュレーションに関心を持ち、問題解決に活用しようとしている。	
3 学 期	ネットワークのしくみ	☐ 情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコル、通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法について理解している。 ☐ IP アドレス、ドメイン名、URL と DNS によるインターネットでのウェブ閲覧・電子メールの原理を理解している。	☐ LAN やインターネットなどのコンピュータによる通信とその影響について考えている。 ☐ ドメイン名の階層構造や DNS の利点について考えている。 ☐ 通信の秘密を守るために、どのような場面で暗号やデジタル署名などの技術が必要かを考え、判断している。	☐ LAN やインターネットなどのコンピュータによる通信に関心を持ち、積極的に活用しようとしている。 ☐ 通信の秘密を守り、情報セキュリティを確保するための暗号やデジタル署名などの技術に関心を持ち、主体的に対応しようとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	データベース	☐ データベースのしくみを学び、それが様々な情報システムの基盤となっていることを理解している。	☐ データベースのはたらきや必要性について考察し、その結果を適切に表現している。	☐ 身近な情報システムとデータベースの活用について関心をもっている。	
	データの分析	☐ 数学的なデータ分析の基礎を理解している。	☐ 表計算ソフトウェアを使って簡単な数学的データ処理や分析手法を身につけることができている。	☐ データのさまざまな形式について関心をもっている。 ☐ データを整理・分析し傾向を把握することに関心をもっている。	